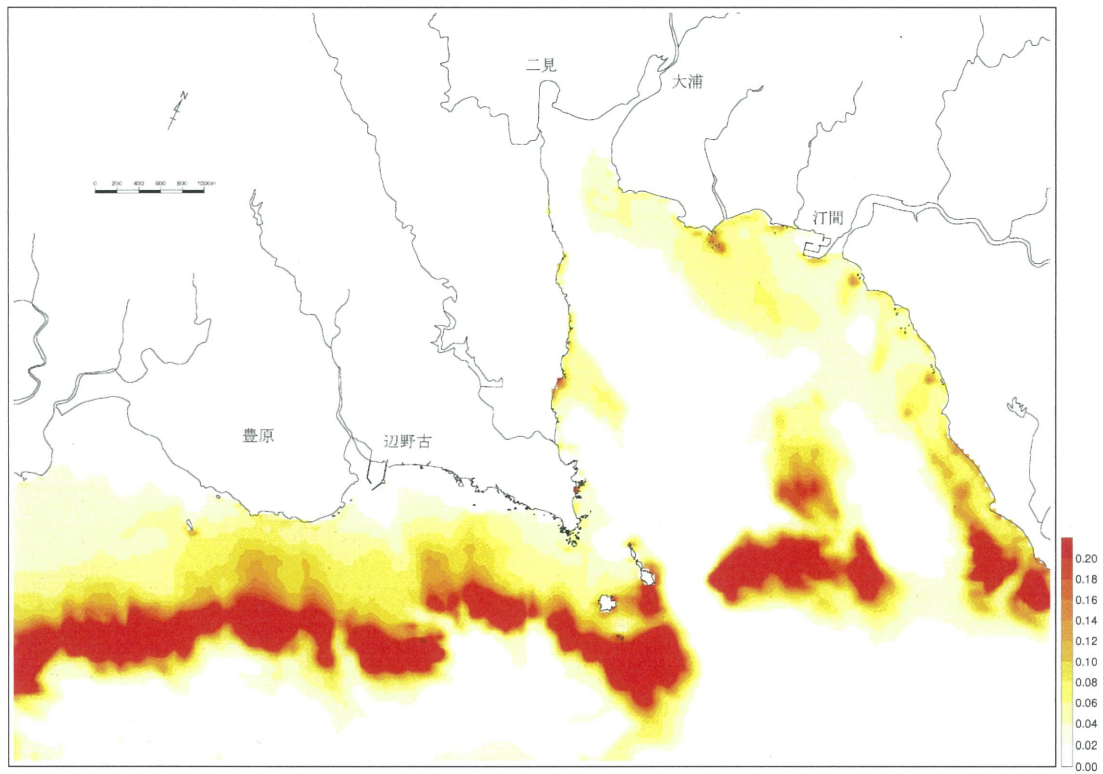


(シールズ数の分布)



(海草類の生育範囲)

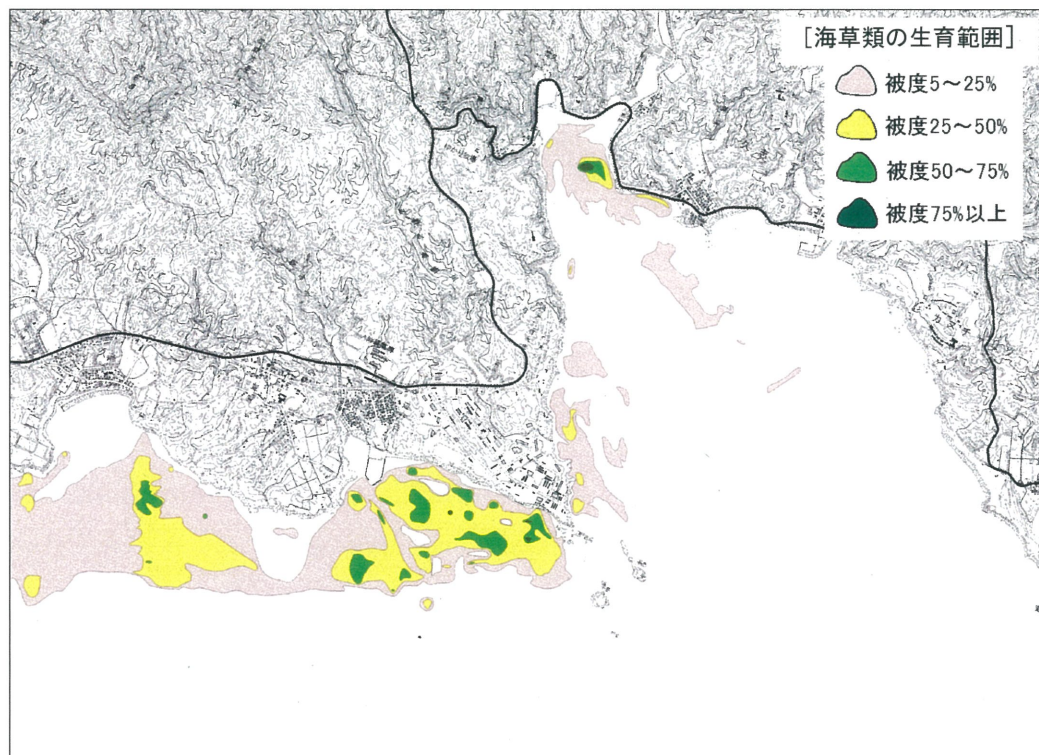
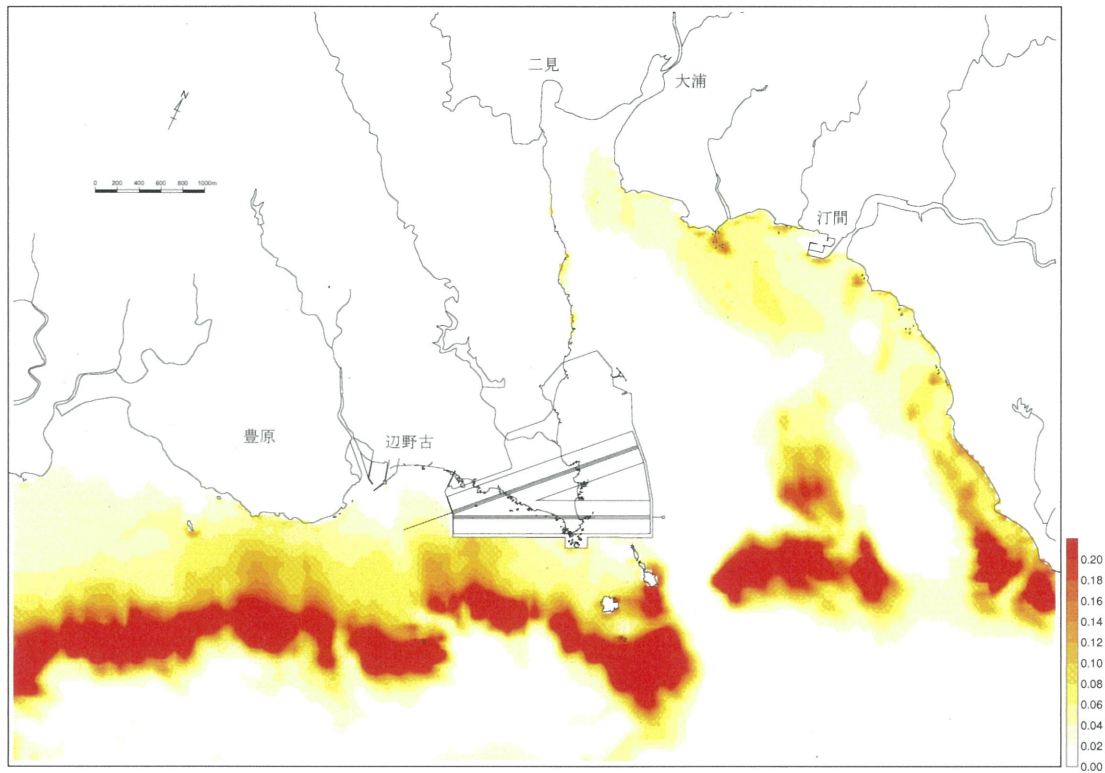


図-6.15.2.2.35 現況地形における高波浪時のシールズ数と海草類の生育範囲

注) 高波浪：四季を通じて毎月発生しうるレベルの高い波浪（沖波波高：2.6m程度）

(シールズ数の分布)



(シールズ数の変化域)

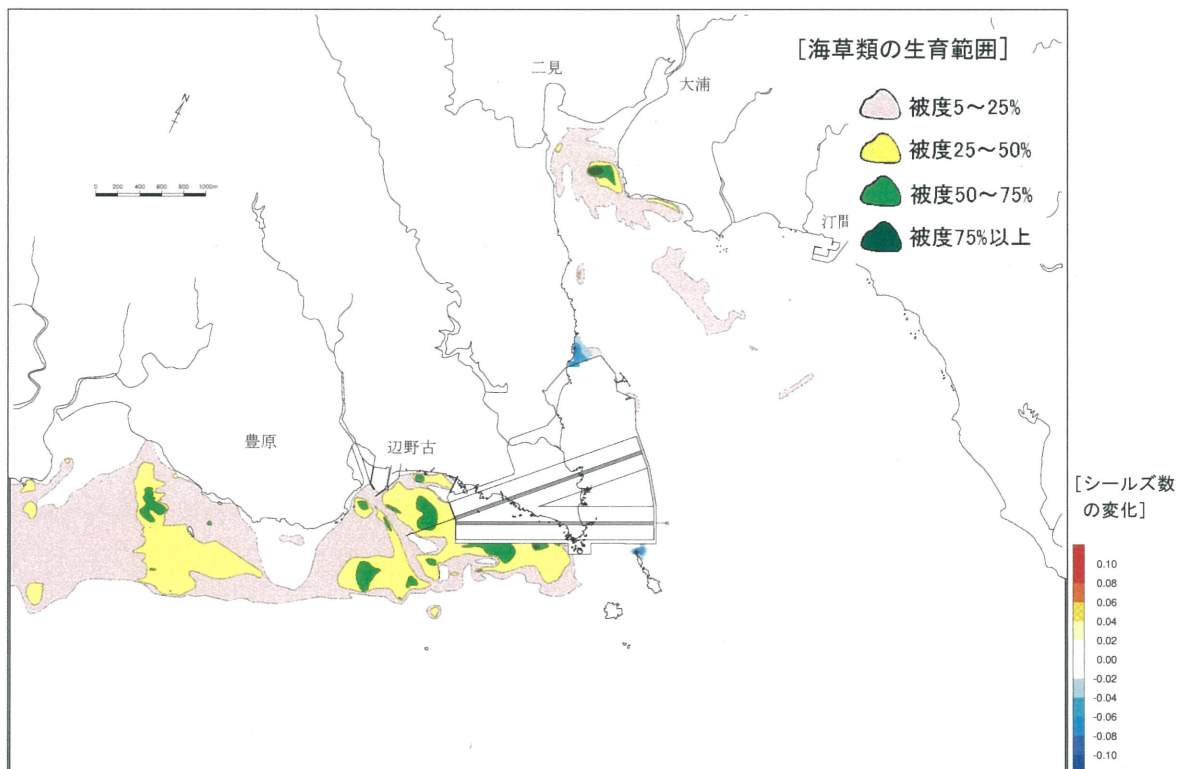


図-6. 15. 2. 2. 36 施設等の存在時における高波浪時のシールズ数の変化と海草類の生育範囲

注) 高波浪：四季を通じて毎月発生しうるレベルの高い波浪（沖波波高：2.6m程度）

(c) 飛行場施設からの排水による影響

海草類は河口域でも生育し、塩分の変動には耐性をもっていると考えられますが、排水口前面では常時淡水の影響が強くなるため、塩分低下の影響が生じる可能性があります。また、排水に伴い有機物や窒素、リンなどの栄養塩類が増加すると海草葉上の付着藻類の増殖により、海草類の光合成や生長量に影響が及ぶ可能性があります。

供用時の飛行場施設からの排水による影響については、熱帯性海草類の塩分、COD 及び栄養塩濃度との関係について定量的な知見が得られないため、事業実施区域周辺における海草類の生育範囲における現況の塩分、COD 及び栄養塩濃度に対する変化の大きさをもとに、予測しました。

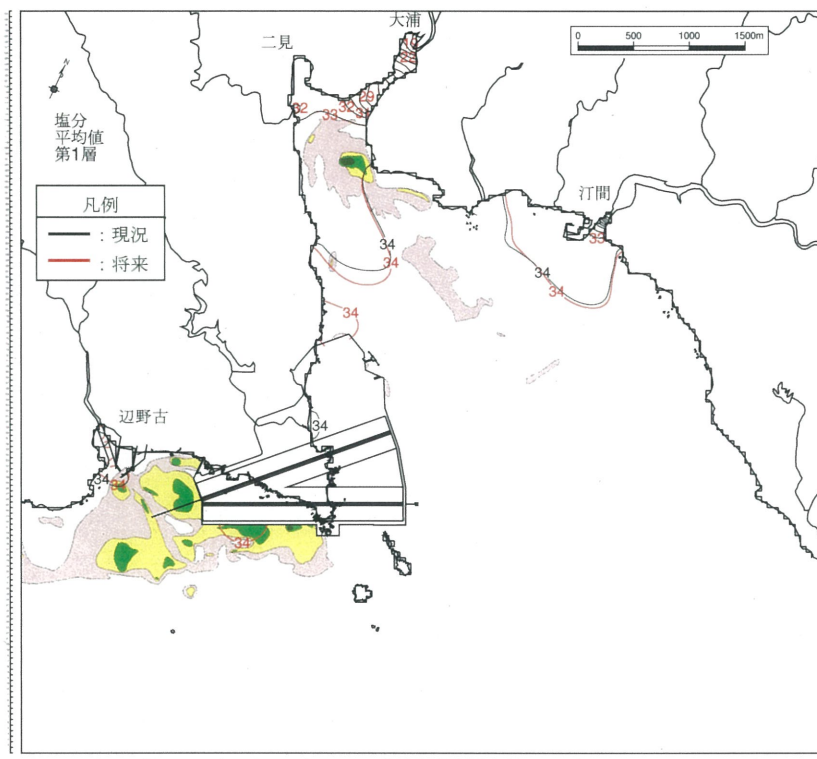
「6.6 水の汚れ」の予測結果より、供用時における飛行場施設からの排水による塩分、水質 (COD) 及び栄養塩 (窒素、リン) の変化を図-6.15.2.2.37～図-6.15.2.2.44に示しました。

供用時の塩分及びCOD の変化の予測結果によると、塩分は、污水处理施設からの排水によって、代替施設本体の南側護岸において、夏季で0.1～0.5の低下、冬季で0.1～0.4の低下域がみられます。この塩分低下は、代替施設本体の南側護岸前面の一部の水域でみられる程度であり、局所的な変化と考えられます。また、CODは、代替施設本体の污水排水地点前面で0.1mg/L程度の増加がみられますが、現況のCOD濃度(1mg/L程度)に対して10%程度の増加であり、生育環境に対して大きな変化を及ぼさないと考えられます。

窒素 (T-N)、リン (T-P) は、排水地点周辺及び辺野古川河口域で濃度の増加がみられます。辺野古川河口域の濃度増加域には海草類の生育は少ないため、影響は少ないと考えられます。一方、排水口周辺の海草類の生育範囲においては、窒素 (T-N) が0.01～0.04mg/L程度、リン (T-P) が0.001～0.005mg/L程度増加すると予測されています。

以上のような変化は、いずれも排水地点周辺の限られた範囲で見られますが、排水地点の前面には50%以上の高被度分布域がみられており、排水口近傍では常時、排水の影響を受け、生育環境に変化が及ぶ可能性が考えられます。このため、施設等の供用時においては、事後調査により海草類の生育状況を調査し、生育分布状況が明らかに低下して来た場合は、必要な環境保全措置を講じます。

(塩分分布)



(塩分変化域)

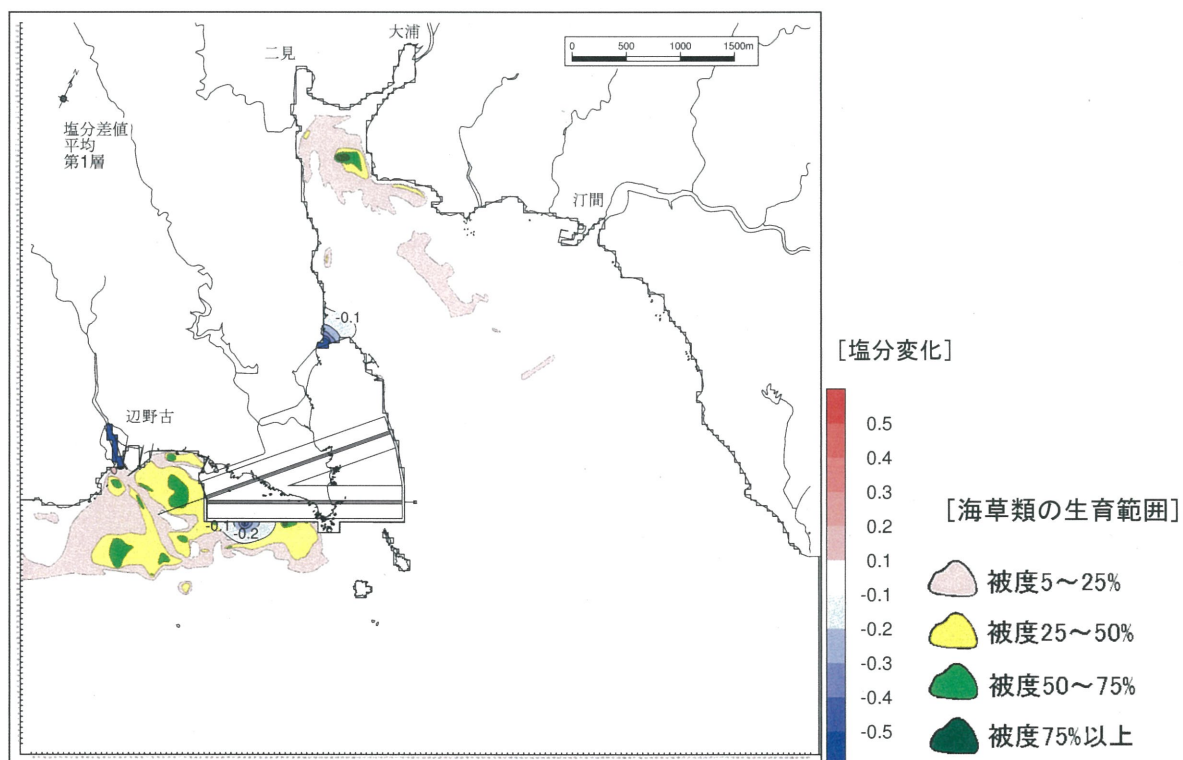
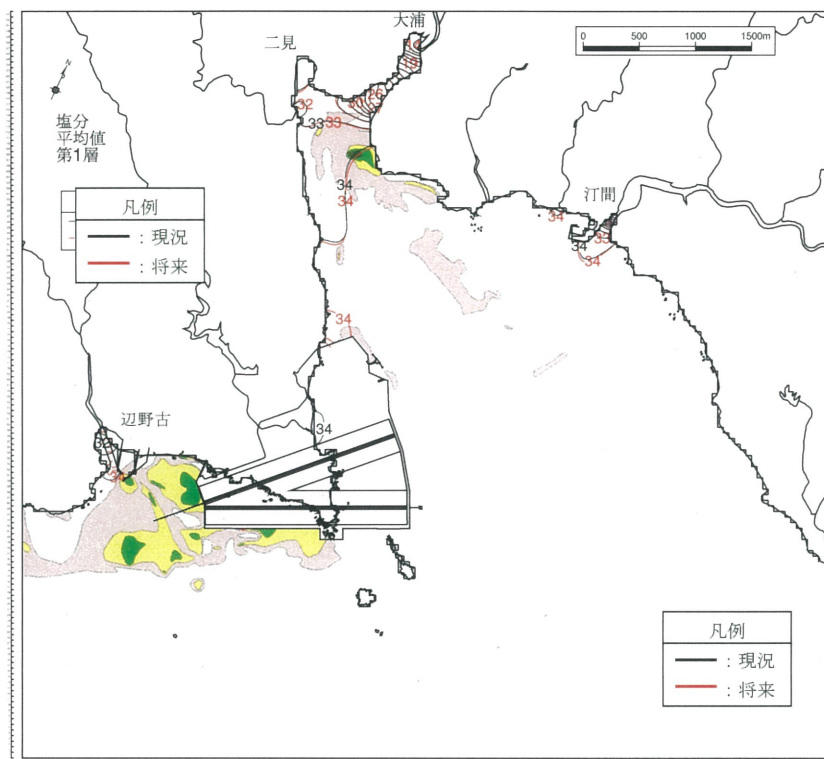


図-6.15.2.2.37 供用時の塩分変化（夏季、第1層）と海草類の生育範囲

(塩分分布)



(塩分変化域)

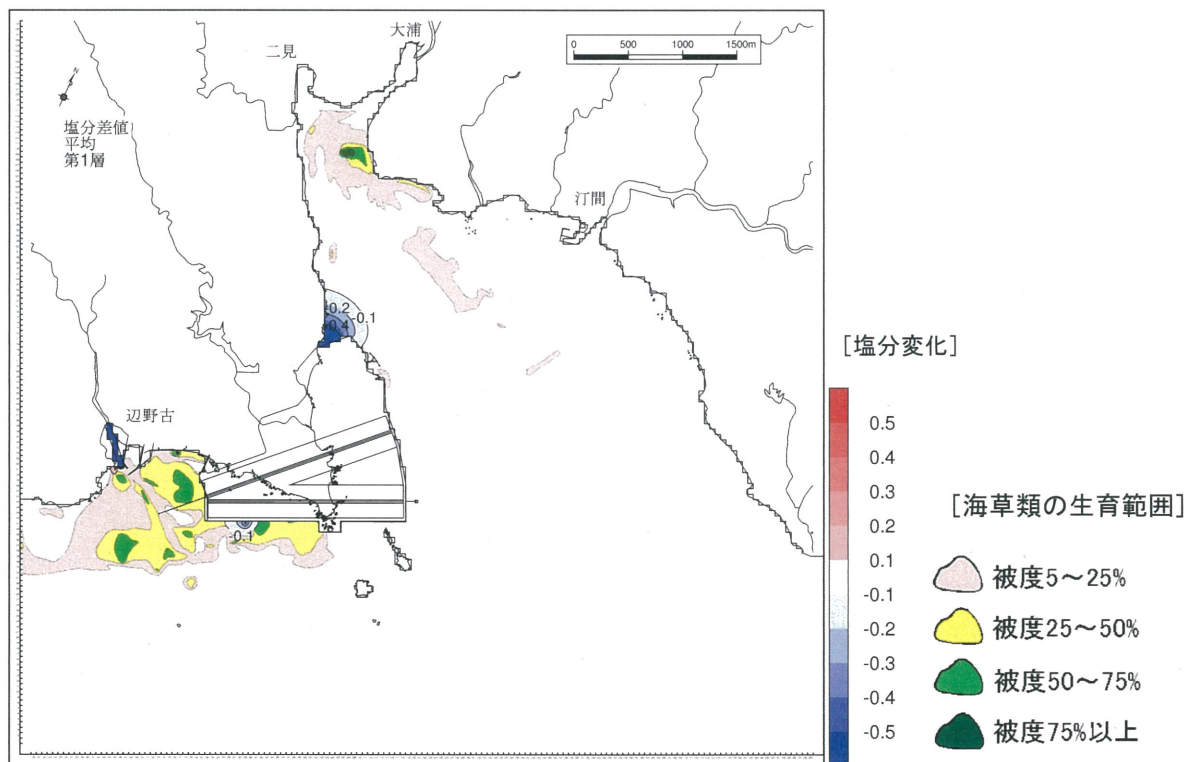


図-6.15.2.2.38 供用時の塩分変化（冬季、第1層）と海草類の生育範囲